

風土や伝統に根ざした地域の食文化を見直す「スローフード運動」。その輪が広がる中、生産者と消費者をつなぐ試みがあちこちで始まっている。春の一日、コミュニケーション型という新しいタイプの農業に取り組んでいる東京都内の小さな農園で催されたお茶会に出かけ、スローフード運動の実践の場を見た。

(東京報道部・岩田直仁)

# 解説的読本

読めばたちまちよく分かる

## 食文化 地域から見直す

### 生産者と消費者 コミュニケーション型農業



①農園の運営法などを説明する馬橋さん(左端) ②農園の一角にある直売コーナーには取れたての農作物が並び



日本に初めてスローフード運動を本格的に紹介した「スローフードな人生！」(新潮社)の著者、島村菜津さん(三三)福岡県出身

### 手始めに3つの実践

福岡出身のライター・島村菜津さん



「足もとの身近な土地で、しっかり作られたモノを食べ、楽しむのがスローフード運動の理念。この農場はその最先端です」。佐賀県唐津市出身で「ニッポン東京スローフード協会」設立発起人の一人、金丸弘美さん(四九)はそう断言する。高度経済成長期に都内二三区の農地は急速に縮小していった。馬橋さんも「ここも昔は一万坪以上あったけど、宅地開発が進んで(ここ)まで小さくなった」と語る。しかし発想を変えれば、宅地に囲まれた農地は「消費者と直結したコミュニケーション型農業に最適」(金丸さん)でもあった。約十五年前に現在の運営方法を導入し、地域に定着した。栽培は減農薬。「ハウスもないから栽培法は丸見え。お客さまは近所の知り合いだから、いいもの出さないとね」と語る馬橋さんの横で、常連客の女性(六七)が「新鮮だし、安心。それが魅力だよ」。こうした小規模都市型農業の多くは兼業農家。駐車場やアパート経営による副収入がある農家も少なくない。年金暮らしの馬橋さん

「足もとの身近な土地で、しっかり作られたモノを食べ、楽しむのがスローフード運動の理念。この農場はその最先端です」。佐賀

も「農業だけでは食えない」という。都市型ならではの経営環境を生かした、生産者・消費者交流の試みといえそうだ。

渋谷から京王・井の頭線の快速に乗って約十五分で久我山駅。そこから約十分歩いて、住宅街の一角に広がる「馬橋リトルファーム」に着いた。敷地は約三千坪。九州の広大な農地を見慣れた目には、まるで小さな公園のように映る。年間に栽培されているのはタマネギ、ジャガイモ、ニンジンといった野菜、メロン、スイカなどの

収穫物の種類が減る冬場は、コマツナを植えた畝を千円程度で

「足もとの身近な土地で、しっかり作られたモノを食べ、楽しむのがスローフード運動の理念。この農場はその最先端です」。佐賀

「足もとの身近な土地で、しっかり作られたモノを食べ、楽しむのがスローフード運動の理念。この農場はその最先端です」。佐賀

「足もとの身近な土地で、しっかり作られたモノを食べ、楽しむのがスローフード運動の理念。この農場はその最先端です」。佐賀

### スローフード

「アンチ・ファストフード?」「食事に時間をかけることかな?」。イタリアに「スローフード協会」が発足したのが一九八六年。いまでは世界四十五カ国に支部があるほど普及しているが、日本に本格的な導入が始まったのは一昨年から。理由が広がったとはまた言い難いのが現状だ。日常の食をしっかりと見直すことから、食と生活、消費と生産の関係を問い直そうというのが運動の念。具体的には①その土地の産物の素材の質の良さを②風土に合った生産法を満たすという条件を満たし



### 伊から運動拡大

た食品がスローフードと(〇円) 写真1は、冒頭される。グローバルなような問いに対する答に對抗する食の地域主義をまとめている。イタリア、食を通して足もとのリアの生産者、現地の地域に活力を呼び込む運動ともいえる。ニッポン東京スローフード協会が出した「スローフード宣言!」イタリイア編(木楽舎、一六〇(3524)9572)。

「スローフード宣言!」イタリイア編(木楽舎、一六〇(3524)9572)。

「スローフード宣言!」イタリイア編(木楽舎、一六〇(3524)9572)。